

## IUCN 世界遺産アウトLOOK2025（要約）

IUCN（国際自然保護連合）が、2014年以降、およそ3年おきに世界自然遺産と複合遺産を対象に、専門家に顕著な普遍的価値への脅威や保全状況の評価を依頼してまとめているもので、2020年以降はコロナのため時間が空いたが、2025年10月に開催された世界自然保護会議で、IUCN世界遺産アウトLOOK2025が公表された。評価は、Good（良好）、Good with some concerns（軽度懸念）、Significant concern（重度懸念）、Critical（危機的）の4段階で評価され、Good（良好）は白神山地のみ、屋久島、知床、小笠原諸島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島はGood with some concerns（軽度懸念）と評価された。IUCN世界遺産アウトLOOKは、世界遺産条約に基づく公式のモニタリング調査ではなく、IUCNが自主的に実施しているモニタリング調査だが、保全状況が悪化すれば世界遺産委員会において加盟国の説明を求められたり、最悪の場合は、危機にさらされた世界遺産リストへの掲載の検討につながる可能性もある。

### 小笠原諸島（Good with some concerns: 軽度懸念）

本地域の顕著な普遍的価値（植物と陸貝の固有種率の高さ及び現在も進行中の進化過程）は、今日まで比較的良好に保全されてきた。しかしながら、兄島へのクマネズミ（*Rattus rattus*）とグリーンアノール（*Anolis carolinensis*）の侵入、そして父島における陸貝生息地へのニューギニアヤリガタリクウズムシ（*Platydemus manokwari*）の分布拡大は、顕著な普遍的価値に対する重大な脅威である。侵略的外来種を防除するための継続的な努力は、一部の島からノネコ、ノヤギ、ネズミを根絶するなど一定の成果を上げており、称賛に値する。しかし、グリーンアノール、ニューギニアヤリガタリクウズムシ、ツヤオオズアリ（*Pheidole megacephala*）のように、一部の侵略的外来種は根強く生息しており、継続的な努力が必要である。訪問者の増加、航空路の開設、気候変動の影響は、侵略的外来種の侵入リスクを高め、脆弱な海洋島生態系の動態を変化させる可能性があり、主要な潜在的脅威である。世界遺産地域におけるバイオセキュリティ対策はさらなる改善が必要である。世界遺産地域の一部は、原生自然環境保全地域、国立公園、国指定鳥獣保護区、森林生態系保護地域、天然記念物として保護されている。環境省、林野庁、文化庁は、小笠原諸島の保護に関する法律を効果的に執行しているが、訪問者の増加は、孤立した島々への上陸を防ぐための更なる努力が必要となる。包括的な管理計画・行動計画が策定されているが、効果的な長期的な外来種管理プログラムを維持するための資金は十分ではない。

### 現在の脅威（High Threat:高い脅威）

侵略的外来種は、現在のところ小笠原諸島における進行中の生態系過程に対する最も深刻な脅威である。侵略的外来種の緩和策と根絶策においては大きな進展が見られた。しかしながら、グリーンアノール（*Anolis carolinensis*）の蔓延、ニューギニアヤリガタリクウズムシ及びコウガイビル（*Platydemus manokwari*、*Bipalium vagum*）のさらなる拡大、アジ

アベッコウマイマイ (*Macrochlamys indica*)、ツヤオオズアリ (*Pheidole megacephala*) が陸貝に深刻な影響を及ぼす可能性などから、脅威のレベルは依然として高い。有人島におけるノネコは、海鳥の営巣にとって依然として脅威であり、オガサワラシジミ (*Celastrina ogasawaraensis*) の絶滅の可能性や、オガサワラカワラヒワ (*Chloris kittlitzii*) の個体数の減少にも留意する必要がある。バイオセキュリティ対策、観光客の受け入れや島嶼間の移動に関する政策や手続きの改善が求められる。また、過去40年間の気温上昇が島嶼の植物の多様性に影響を与えている。気候変動は海流、海洋酸性度、栄養塩の利用可能性、種の分布への影響を通じ、極端な気象や海洋システムへの悪影響が示唆される。気候変動が島嶼の植生に与える影響については、すでにいくつかの研究が行われており、干ばつ耐性、種の優占度、そして気候変動の間に関連があることが示唆されている。台風や干ばつなどの度重なる異常気象は、固有の樹木の減少を引き起こしている。

### 潜在的な脅威 (High Threat: 高い脅威)

訪問者の増加と航空路の開設は、外来種の新規導入や訪問者による影響の増大、気候変動による島の生態系への影響につながる、主要な潜在的脅威である。世界遺産登録後、この地域への関心が高まっているが、島への長い航海と重要な島の孤立性が相まって、訪問者は管理可能なレベルに制限されているが、定期船以外の船舶は訪問者数を増加させ、生物多様性を脅かす可能性がある。2020年7月に開催された東京都の航空路協議会で発表された2つの航空機オプションのうち1つは、世界遺産に隣接する中山峠の地形変化を含む、地域に重大な影響を及ぼす可能性があったが、このオプションに使用する予定だった航空機の開発は中止された。

### 保全と管理 (Mostly Effective: おおむね効果的)

構成資産はさまざまな制度によって保護されており、環境省、林野庁、文化庁が法執行を担っている。環境省、林野庁、東京都、小笠原村は、地域連絡会議を通じて地域住民の参加を促進しながら、保護管理のための管理計画と行動計画を効果的に実施している。管理当局は、島の脆弱な生態系に対する外来種の脅威に対処するため、目覚ましい努力を払ってきた。しかし、利害関係者は、外来種管理の課題の規模に見合った追加資金の投入を強く求めている。気候変動の影響を評価するには、更なるモニタリングと調査が必要である。

(<https://worldheritageoutlook.iucn.org/explore-sites/ogasawara-islands>)